ミライアル株式会社
2014年1月期決算説明資料

2014年3月7日

2014年1月期決算概要 ・・・・・・ p. 1

2015年1月期業績予想 ・・・・・・ p. 8

経　営　戦　略 ・・・・・・・・・・・・・ p.10



ミライアル株式会社

2014年1月期決算概要 ～ 1. 売上高/経常利益の比較

■決算概要

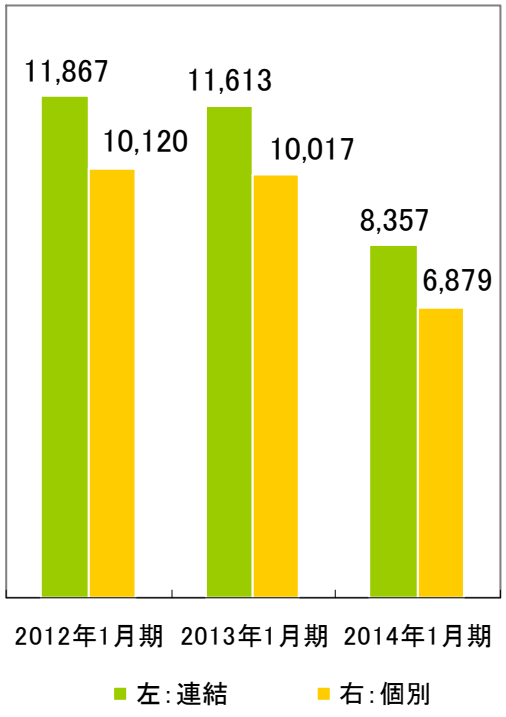
✓ 売上高:8,357百万円（前期比 28.0%減）

プラスチック成形事業(当社グループ主力事業)の主要販売先である半導体業界にて、市況が大きく変化。牽引役のスマートフォンは、低価格品への需要のシフトが起こり、1台に使われる半導体の量が減少。その影響で、当社の販売先であるデバイスメーカーにて生産調整・在庫調整が行われ、当社の業績も前期比で大幅な減収となりました。

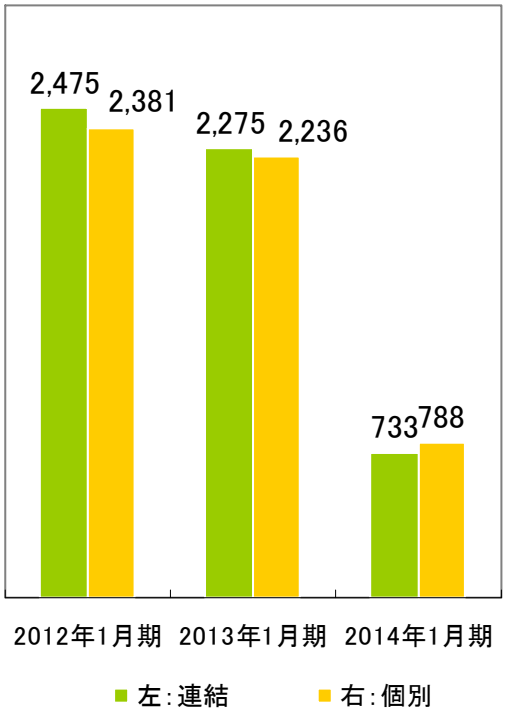
✓ 経常利益:733百万円（前期比 67.8%減）

コスト削減を図ったものの、稼働率低下、減価償却費増加(主に450㎜関連製品)、設備投資増加(研究開発拠点構築、メガソーラー)などが影響し、減益となりました。

売上高　（単位:百万円）



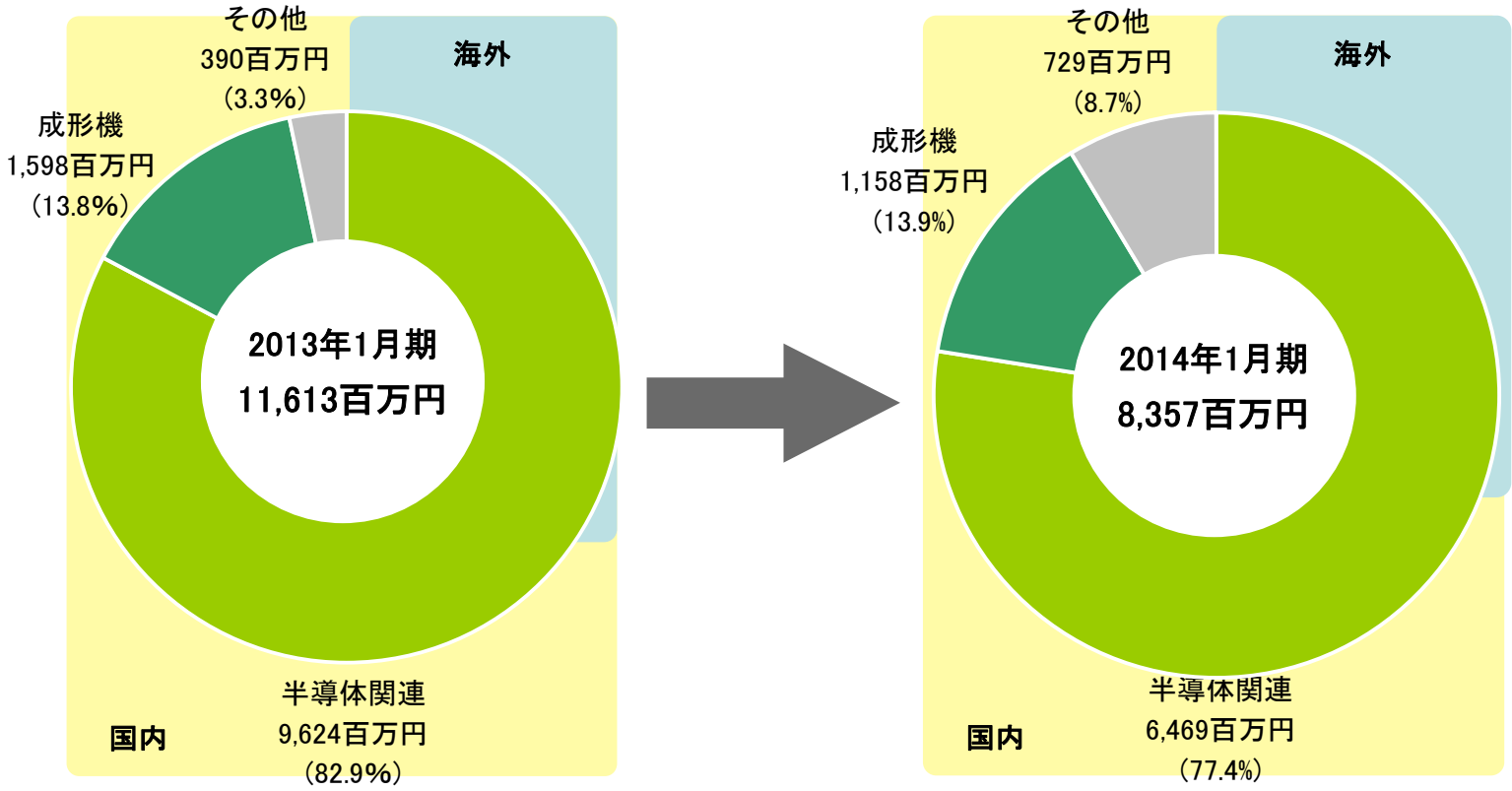
経常利益　（単位:百万円）



Copyright:2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2014年1月期決算概要 ～ 2. 事業別売上高の比較

事業別売上高（連結）



Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2014年1月期決算概要 ～ 3. 業績の概要

連結業績

（単位：百万円・%）

	2013年1月期		2014年1月期	
	金額	前期増減率	金額	前期増減率
売上高	11,613	△2.1	8,357	△28.0
売上総利益	4,254	△0.2	2,231	△47.6
営業利益	2,203	△4.0	573	△74.0
（営業利益率：%）	(19.0)		(6.9)	
経常利益	2,275	△8.1	733	△67.8
税引前当期純利益	2,196	△7.7	716	△67.4
当期純利益	1,430	6.1	442	△69.0
設備投資	991		757	
減価償却	536		662	
純資産	17,127		15,123	
総資産	20,547		17,613	

個別業績

（単位：百万円・%）

	2013年1月期		2014年1月期	
	金額	前期増減率	金額	前期増減率
売上高	10,017	△1.0	6,879	△31.3
売上総利益	3,770	1.0	1,777	△52.9
営業利益	2,170	△6.7	471	△78.3
（営業利益率：%）	(21.7)		(6.9)	
経常利益	2,236	△6.1	788	△64.7
税引前当期純利益	2,239	△4.4	775	△65.4
当期純利益	1,309	△2.6	521	△60.2
設備投資	1,008		608	
減価償却	506		617	
純資産	16,726		14,783	
総資産	19,494		16,720	

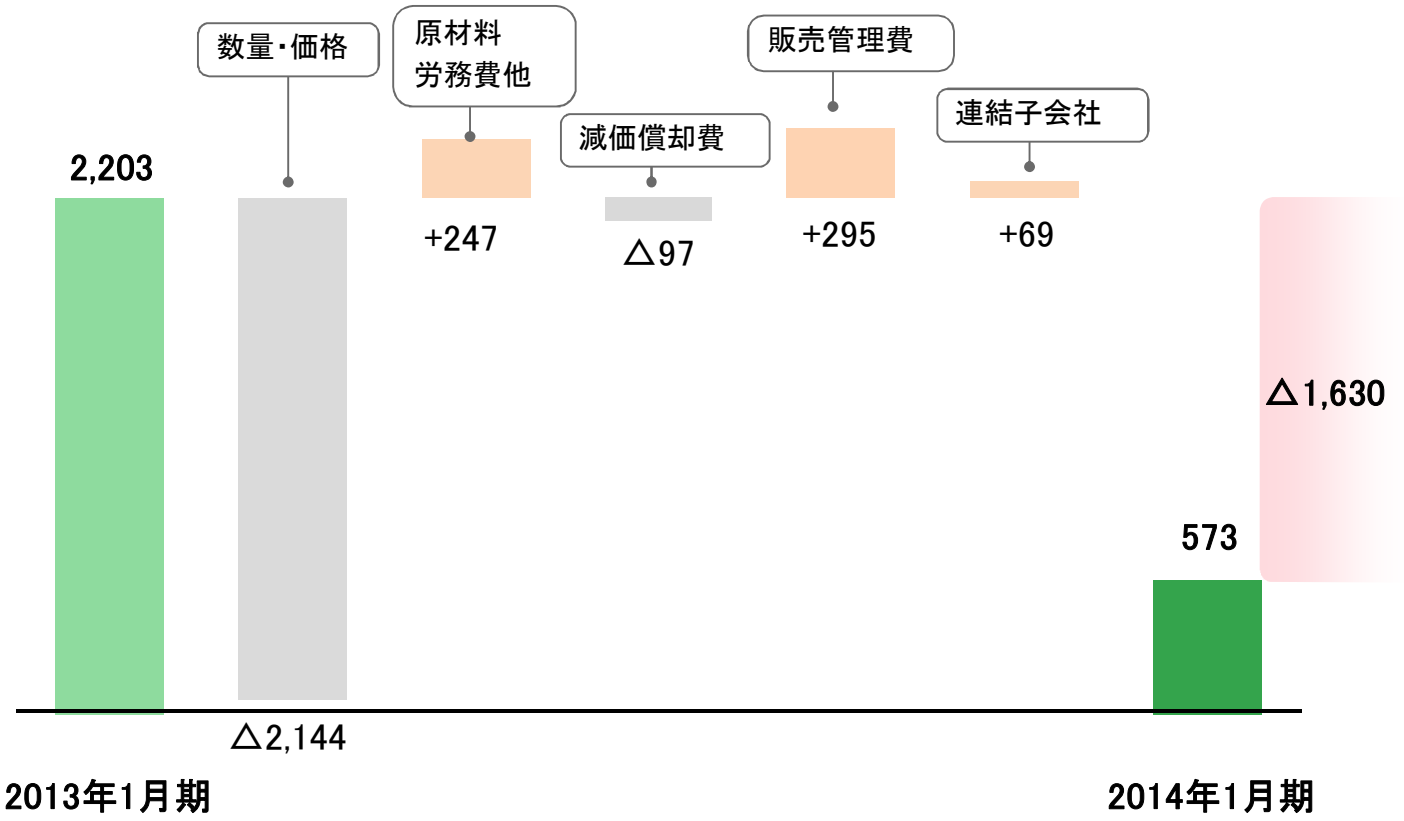
■ 2014年１月期におきましては、自社株買い 1,756百万円（1,130千株）を実施したこと等により、純資産が減少しております。

Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2014年1月期決算概要 ～ 4. 営業利益増減要因分析(連結)

対前期比

(単位:百万円)



Copyright:2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2014年1月期決算概要 ～ 5. キャッシュフロー(連結)

キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2013年1月期	2014年1月期	増　減
営業活動によるキャッシュフロー	1,624	277	△1,346
投資活動によるキャッシュフロー	△859	1,182	2,041
(内)有形及び無形固定資産の取得による支出	△788	△874	△85
財務活動によるキャッシュフロー	△730	△2,609	△1,879
(内)自社株買い	－	△1,754	△1,754
(内)配当金支払	△607	△708	△101
(内)有利子負債減少	△123	△146	△23
現金及び現金同等物期末残高	5,353	4,293	△1,059

■2014年1月期は、研究開発拠点構築、メガソーラーに係る設備投資 406百万円 を含んでおります。

Copyright:2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2014年1月期決算概要 ～ 6. 売上高推移(四半期毎)

■ **連結売上高**

✓ 2014年1月期 4Q:2,343百万円 (3Q比 23.1%増)

■ **個別売上高**

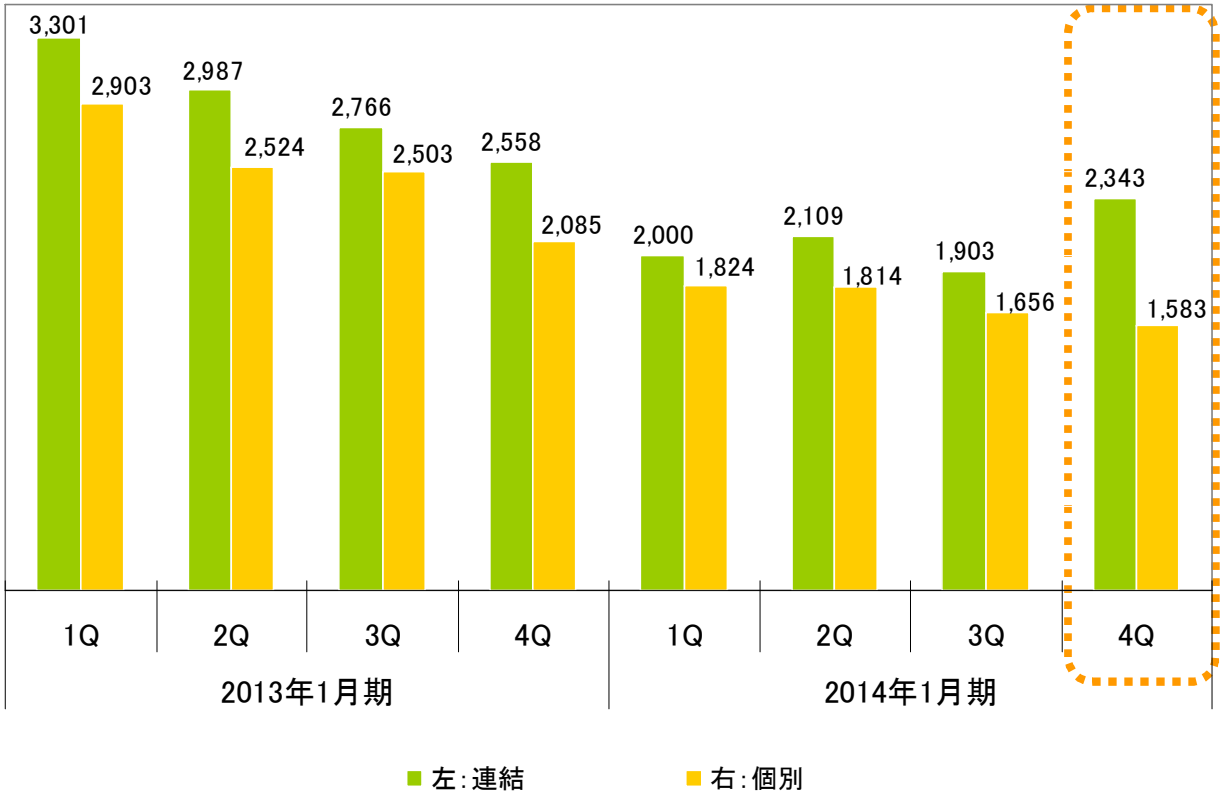
✓ 2014年1月期 4Q:1,583百万円(3Q比 4.4%減)

■ミライアル単体では、主力製品である300㎜シリコンウエハ出荷容器「FOSB」に関し、年初の想定に反してスマートフォン市場の成長が鈍化した影響により、当社販売先でも生産調整・在庫調整が起こり、前四半期に続き減収となりました。

■グループ連結では、子会社の㈱山城精機製作所は、上期半期後半より受注回復傾向は見られたものの、昨年後半からの受注減と、利益を確保できる案件と機種に選択と集中を行った結果から、減収となりました。また、2014年1月期4Qより、連結化した株式会社宮本樹脂工業の売上も含んでおります。

売上高推移(四半期毎)

(単位:百万円)

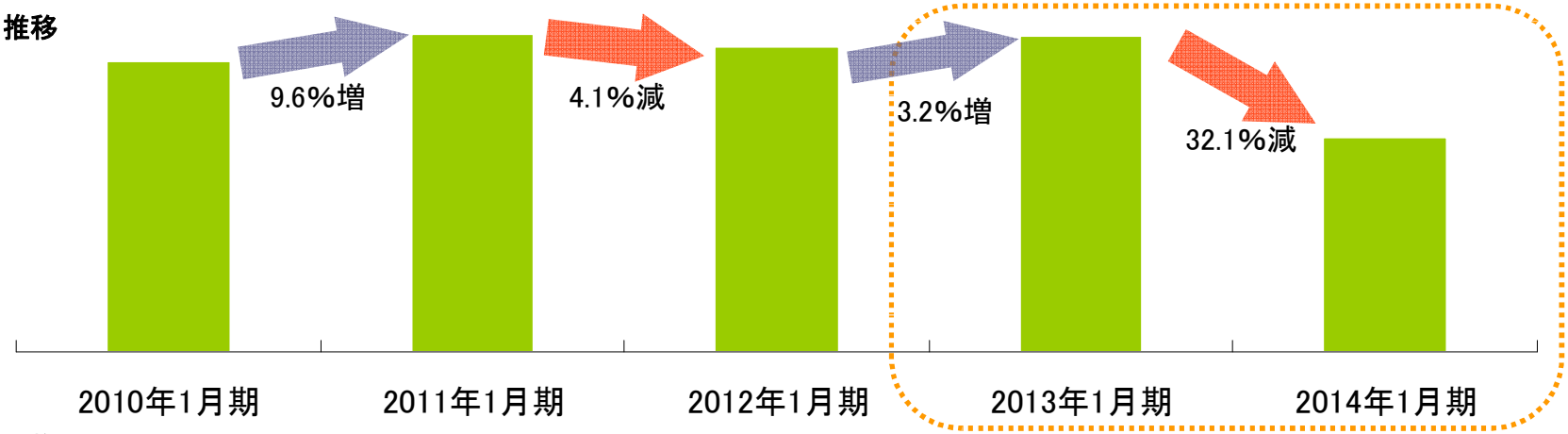


Copyright:2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

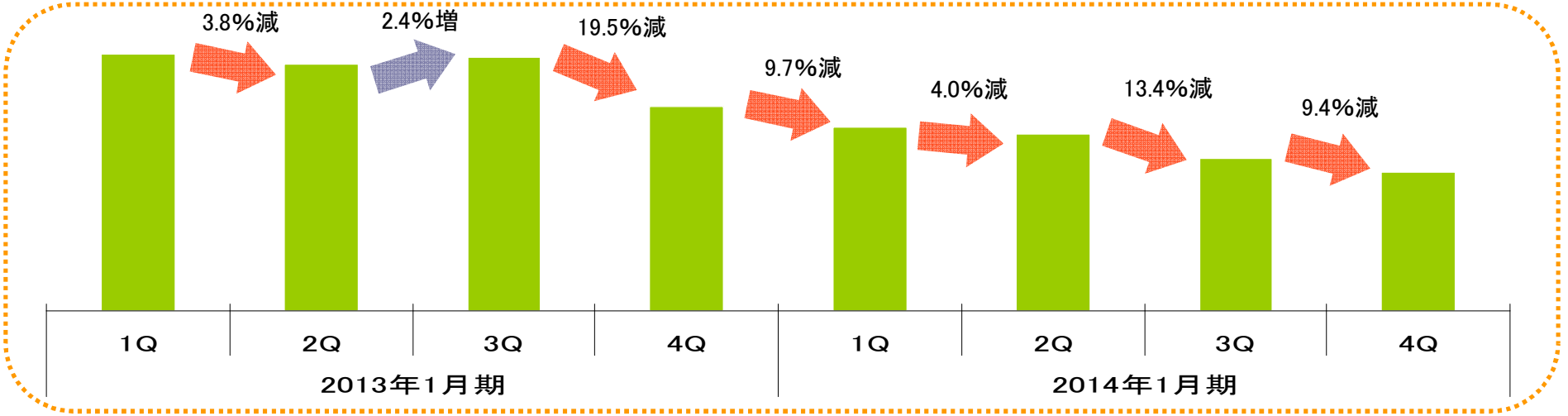
2014年1月期決算概要 ～ 7. 半導体関連製品事業の業績

シリコンウエハ出荷容器　売上高の推移

■通期推移



■四半期推移



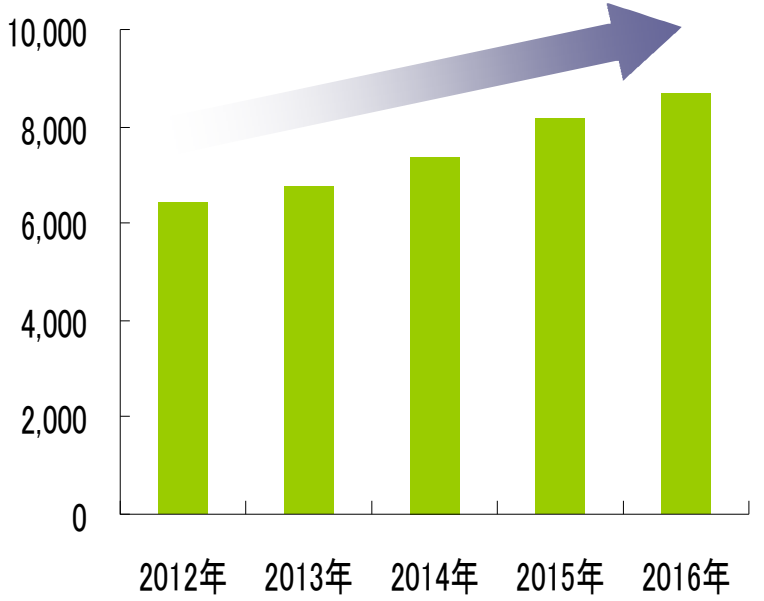
Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2015年1月期業績予想　～1. 業績予想サマリー

売上高

- 世界全体の半導体市場規模は、景気循環の影響を受けながらも、マクロ的には緩やかな拡大を続けていく見通しです。
- 当社主力製品FOSBによって搬送される300㎜ウエハはシリコンウエハ市場の牽引役であり、今後も伸長を続けると予想されています。また、小口径ウエハからの移行や、生産用途の拡大等により、一層裾野を広げていく見通しであります。
- FOSBのリユースについては、足下で全体の容器量の内、30%前後で推移していると予想しています。今後も同様で推移すると見込んでいます。

■300㎜シリコンウエハ出荷面積予測(100万平方インチ)



出典:弊社推測

営業利益、経常利益

- ■当社は品質向上と更なるコスト削減による競争力の強化を図ってまいります。
- ■グループでのコラボレーションを強化し、新分野展開、更なるコストダウンを実施します。
- ■成形機事業では、市場動向を注視し、付加価値の高い特殊機に重点を置き、利益の確保に注力してまいります。

Copyright:2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

2015年1月期業績予想　～2. 業績予想

損益計算書（連結）

（単位：百万円・%）

	2014年1月期 第2四半期累計		2014年1月期 通期累計		2015年1月期 第2四半期累計	
	金額	前期増減率	金額	前期増減率	金額	前期増減率
売上高	4,110	△34.6	8,357	△28.0	4,190	1.9
営業利益	368	△72.2	573	△74.0	160	△56.5
経常利益	447	△66.9	733	△67.8	240	△46.3
（当期）純利益	301	△65.3	442	△69.0	140	△53.5

事業別売上高

（単位：百万円・%）

	2014年1月期 第2四半期累計			2014年1月期 通期累計			2015年1月期 第2四半期累計		
	金額	構成比	前期増減率	金額	構成比	前期増減率	金額	構成比	前期増減率
プラスチック成形事業	3,639	88.5	△33.0	7,198	86.1	△28.1	3,641	86.9	0.1
半導体関連	3,473	84.5	△33.2	6,469	77.4	△32.8	3,342	79.8	△3.8
その他	166	4.0	△27.6	729	8.7	86.7	299	7.1	80.1
成形機事業	471	11.5	△45.2	1,158	13.9	△27.5	549	13.1	16.6
合計	4,110	100.0	△34.6	8,357	100.0	△28.0	4,190	100.0	1.9

■ 現時点において、2015年1月期の1株当たり配当金については未定であります。

Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

経営戦略　～基本方針

1. 現存事業の競争力強化

コスト削減の徹底と
品質の造り込みにより、
市場でのポジションを
維持･向上。

【プラスチック成形事業】			【成形機事業】
工程内容器	出荷容器	樹脂･金属加工	竪型射出成形機
当社コア技術を 応用展開し 新製品開発、 販売チャネル拡大	300㎜ シェア確保 450㎜ 市場を注視し覇権獲得	グループ内での 技術連携 による事業拡大	･柱となる商品確立 ～汎用･LIM･TF ＋装置 ･竪型の特長を 活かせる特殊機

2. 新たな収益源の構築

現存事業で培った技術、獲得した資金、
収集した情報等を活かし、
新たな収益源となるべき
新製品開発･新事業構築に取り組む。

新製品開発	新事業
･グループ内技術の深化 ･グループ間連携による新分野開拓	･現存事業以外のドメイン拡大･多角化 ･内外のリソース活用 【外部】業務提携／M＆A等 【内部】自社開発

3. グループ基盤の強化

ミライアルグループが保有する、物的資産、金融資産等の「**見える資産**」を活用し、
人材、技術、お客様との信頼関係等の「**見えない資産**」の強化に鋭意取り組む。

Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.

本日はありがとうございました

「ミライアルの未来」

明日に向かって

「未来を見つめ」「未来を考え」「未来を創る」

夢と創造に挑戦

IR問い合わせ窓口

ミライアル株式会社　経理部

電話：03-3986-3782　FAX：03-3986-3853　E-Mail：investor_relations-m@miraial.co.jp

＜将来見通し等に関する注意事項＞

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

Copyright：2014 © Miraial Co., Ltd. All Rights Reserved.